

立教186年
活動方針

「教祖のひながたを目標に
全教会心定めの達成」

◇10月26日 本部秋季大祭◇

【25日】

10時00分 境内地ひのきしん 11時30分 お願いづとめ
13時30分 おぢば講習会 ~ひながたから学ぶ縦の伝道~
18時15分 親睦会

【26日】

5時15分 回廊拭き出発 6時15分 朝づとめ
8時00分 秋季大祭

◇ようぼく一斉活動日◇

第1回目：立教186年（2023年）10月29日（日）

同じ地域に住むようぼくが近隣の教会に集まり、ともに勇ま
せ合って、さらなる教えの実践につなげよう！（全5回開催）
詳しくは各教会にお尋ね下さい。



大教会のHP がご覧になれます！

月報には掲載されない写真もいっぱいです！

ぜひ一度ご覧下さい♪

網走月報

発行所
天理教網走大教会
布教部出版広報掛
〒093-0073
網走市北3条西6丁目
TEL 0152-43-2227
FAX 0152-44-2227

大教会九月月次祭

大教会9月の月次祭は、12
日午前9時30分から大教会長
祭主のもと、執行された。

大教会長は祭文で、親神様
の御守護に御礼申し上げた後、
「八月はようぼく二名の御守
護を賜りましたこと厚く御
礼申し上げます。尚、今月は
にいがけ強調月の一ヶ月と
なり、月末には全教一斉にを
いがけデーも控えております

ので、ぢばの声を素直に実行
へ移させて頂き、昨年同様の
動きならぬよう、三年千日
の大きな旬に、今日出来るこ
とを一つ、また一つと積み重
ね、心定め達成へ向け、喜び
心一杯に伏せ込ませていただ
く所存でございます。」と奏
上した。

きません。ですから人をたす
けなければならぬというこ
とです。人を救ったら我が身
救かると神様は仰って下さい
ます。大変ありがたいこと
であります。人だすけをする、
人に喜んでもらうにはやはり
教祖のひながたを手本にする
ことが一番の近道です。

神殿講話

瀬川 定自 役員



神殿講話抜粋

◆年祭活動とは◆
論達第四号の中に、

「おさしづに

ひながたの道を通らねばひ
ながた要らん。(略) ひなが
たの道より道が無いで。

と仰せられている。教祖年祭
への三年千日は、ひながたを

目標に教えを実践し、たすけ
一条の歩みを活発に推し進め
るときである。」
とあります。親神様からしま
すと子供であるすべての人を
たすけたいという思い、この
思いに近づくようにひながた
を通して頂くことが大切に
あります。

私たちお道を信仰するすべ
ての人は「陽気ぐらし」を目
標に日々歩んでいます。「陽
気ぐらし」を実現するにはす
べての人間がたすけ合わなけ
れば陽気ぐらしにはたどりつ

教祖はまず「月日のやしろ」
となられました。「月日のや
しろ」とは通常木で作ったお
社の中に、御幣などがあり御
神体となつていますが教祖の
お身体がそのお社にあたり、
お姿は人間と変わりませんが
親神様が教祖の心に入り込ん
で、教祖が親神様の思いを私
たち人間にお伝え下さいまし
た。ですから教祖のお心が御
幣などにあたります。教祖の
お心は、親神様のお心そのも
のであります。

おふでさきに
いまなるの月日のをもう事な

るわ くちわにんけん心月日
や (十二―67)
しかときけくち八月日がみな
かりて 心は月日みなかして
いる (十二―68)

とあります。親神様の思いは
教祖の口を通してお伝え下
さっているということ。す
そして親神様の思いそのまま
を五十年の間、私たち人間が
通りやすいようにと子供であ
る私たちのためにお通り下さ
れた道が万人の手本「ひなが
た」であり、自ら人々の手を
取って導かれた教祖を「ひな
がたの親」と慕っています。

また、おさしづに
「子供可愛い故、をやの命を
二十五年先の命を縮めて、今
からたすけするのやで。しつ
かり見て居よ」(明治二十・二
十八)

とあります。
教祖は私たち人間を早くた
すけたいとの思いで定命を二
十五年縮めて、お姿をお隠し
なされ魂は元のやしきに留ま
り存命のまま今も生きて私た
ち子供の成人をお見守り下
さっています。すなわち「教
祖存命の理」であります。

この教祖の三つのお立場
分が通らして頂いた教祖百二
十年祭、百三十年祭の三年千
日を振り返り、現在の自分の
動きと比べて見ました。百二
十年祭の年祭活動の一年目は
先ほどお話ししました、布教の
家に入寮させて頂き、日々教
祖を感じさせて頂きながらつ
とめておりました。

百三十年祭の年祭活動には
教会長として大きな心定めを
させて頂き、その達成に向け
日々を通して頂いておりま
した。その結果、両年祭とも
に自分には勿体ないくらいに
大きなご守護を頂きました。

親神様、教祖がその時の私に
あったお導き、道を付けて下
さいました。

百二十年祭三年千日は自分
の結婚の問題、百三十年祭の
三年千日は教会長として次の
者に引き継ぐという大きなこ

「月日のやしろ」「ひながたの
親」「教祖存命の理」このこ
とをしつかり心に置いて教祖
のことを考えさせて頂きまし
と、教祖は人間をお創り下さ
れた親神様の思いそのまま、
私たち人間をたすけたいとの
親心から五十年の間お通り下
さいました。教祖は飲まず食
わずのような生活を二十数年
通られ、更には悪いことをし
ていないのに監獄所でご苦労
下され、私たち人間からする
と大変苦労の道でありますが、
教祖は苦勞と思わず勇んでお
通り下さいました。これはす
べて私たちのためと思うと大
変ありがたいことでもあります。

「月日のやしろ」となられ
親神様の思いを「ひながた」
としてお通り下さり、今もな
おご存命のまま私たち人間を
お守り下さっています。大変
ありがたいということ。頭で
は理解できますが、心で感じ
なければ短い期間は動いても
三年千日継続して動くにはな
かなか難しいかと思えます。
そこでお姿は見えませんが
ご存命の教祖を常に感じさせ
て頂くことが大切だと思いま
す。日々の朝夕おつとめ、お

とがあつての心定めをさせて頂き
頂き通らして頂きました。そ
の時にあつた問題に対して心
定めをさせて頂き、つとめさ
せて頂いたわけでありますが、
しかしこの度の年祭はやらな
ければならないことはたくさ
んあります。自分にとっての
大きな出来事がないのでモチ
ベーションが上がってこな
かつたのであります。

大きな目標がないこの状況
でモチベーションが上がらず
足踏みしていることは自分に
足りないところであつて、そ
れでも動けるようになること
この動きが日常できるように
ならなければなりませんし、
改めて振り返ってみても、教
祖から何かしらのご守護を頂
いていたと思えます。

以前の年祭活動を振り返り、
教祖から頂いたご守護を今一
度思い返し、この度の年祭活
動は自分にとって何ができ
るのか何をしなければならな
いのか考えて頂きたいと思いま
す。重要なのは三年千日一年
目も残り少なくなってきました
たので普段とは違う実動、動
きをしなければなりません。
論達第四号の冒頭で真柱様

願いつとめで教祖にご挨拶さ
せて頂くと教祖を感じさせて
頂くことができます。そして
おさづけをお取り下さりして
頂いておられますと教祖の手足
となつてお取次ぎさせて頂い
ていますので、教祖お願いし
ますと教祖を感じさせて頂く
ことができます。

◆教祖を感じた瞬間◆

二十七歳のとき布教の家に
入寮してにをいがけに出させ
て頂いてから感じ方、思いが
変わりました。毎日にをいが
けに出させて頂き、教祖のお
供をさせて頂くんだと一軒一
軒、教祖よろしくお願いま
すと頭を下げ訪問し、終わる
と教祖ありがとうございます
と頭を下げて次へと行きます
そうすると自然に教祖が頭に
浮かんできてにをいがけをし
ている時は常に教祖を感じな
がら通らせて頂きました。

そしてありがたいことにほ
ぼ毎日おさづけをお取次ぎさ
せて頂くことができました。
そうなりますと教祖の手足と
なり道具となつておさづけを
取り次がせて頂くこうとなり、
私に覆いかぶさつて手を動か
して下さるような感覚、また

は「思うところをのべて、全
教の心を一つにしたい。」と
仰せられました。世話人久保
先生の巡教でのお言葉に「私
は教祖の年祭は我々皆の親の
年祭だと考えています。教祖
は私たちの親であります。」
とお話し下さいました。私た
ちの親である教祖の年祭であ
ります。そしてこんなにも至
らない我々をいつも心にか
けてお見守り下さる教祖の年祭
であります。ですから私たち
は真柱様がお示し下さる論達
第四号を指針に親に喜んで頂
くため、心を一つに三年千日
歩ませて頂かなければならな
いのです。

おさしづに
人間という、元々一つの理よ
り始めた。兄弟なら兄弟と
いう意味が無くばならん。な
れど、中に兄弟心が合わん者
もある。皆それ／＼心のより
合わせてくれ。…それ／＼
心の理を合わすなら、どんな
事も叶わんとは言わん。…
成るも神成らんも神という理
は、こうという精神を定める
なら、受け取らんとは言わん。
受けとらにゃならん。

(明治28・5・19)

温かさを感じておさづけをお
取次ぎさせて頂きました。

この布教の家の時に教祖は
本当にご存命なんだ、常にお
見守り下さりありがたいなあ
と感じさせて頂き、たった一
年の布教の家でのことでした
が、今では考えられない別席
者のご守護などたくさんのご
守護を頂きました。

このように教祖がご存命で
お見守り下さる温かさを感じ
ながらひながたを考えさせて頂
きますと、更に教祖のひな
がたがあるから私たちは何が
あつてもありがたいと思わせ
て頂けます。
現在、にをいがけ先で通わ
せて頂けるお宅を何件かお与
え頂いています。その中で、
もう四、五年以上通わせて頂
いているお宅もあります。行
けば喜んで下さるのですが、
教会へ来て頂き、参拝をと声
をかけても参拝してくる方
は全然いません。自分の丹精
が足りないことはわかつてい
ますが、教祖は食べることも
大変な中お通り下さり、二十
数年かかってやっと最初にお
供えを持つてくる人ができた
と聞きますとそれを思えば

とあります。

人間は皆、親神様から生ま
れた兄弟です。兄弟であつて
も心が合わない人もいます。
それでも心を合わせることに
できたならどんなことも叶え
て下さいます。そして真柱様
は論達の初めに「全教の心を
一つにしたい。」と又、最後に
は「世界たすけの歩みを一手
一つに力強く押し進め」とも
あります。ですから心一つ、一
手一つにこの年祭活動を通ら
せて頂ければ必ず自分にとつ
ても大きなご守護が頂けます。
まだなかなか動き出してい
ない方、どうしたらよいのか
思案している方はまず、おぢ
ばの声、ご本部の声に素直に
答えることであります。

「九月はにをいがけ強調の
月として提唱下さつており、
月末の「全教一斉にをいがけ
デー」は、国々所々のよふぼく
が一斉に、にをいがけに取り
組む行事であります。今年の
九月の動きが、三年千日でど
こまで成人させて頂けるかの
試金石になるように思います。
全教一斉にをいがけデーに
はすべてのようぼく・信者さ
んに参加して頂き、この実動

もつと喜んでつとめさせて頂
こうと思わせて頂きます。

このこと一つ取つても教祖
のひながたはありがたいと思
わせて頂けます。ですから日
常、私たちに起こつてくるこ
とに対して、教祖のひながた
を照らし合わせることででき
、どんなに大変で困難な中でも
私たちは喜ぶことができます。
日々、もつともつと教祖を
身近に感じさせて頂くことが
できれば、「教祖のひながた」を
意識せずとも自然とひながた
に近づけるような歩みができ
るようになると思えます。こ
の年祭活動はもつと教祖を身
近に感じさせて頂きましよう。
そのためにはやはりおつとめ
やにをいがけ・おたすけに普
段とは違う動きをつとめさせ
て頂かなければなりません。

◆三年千日の意味合い◆

三代真柱様のお言葉に、
「三年千日は、一度だけ経験
すればよいというものではあ
りません。三年千日の仕切り
を繰り返すことは、前にでき
なかつたことを改めてやり直
せることであつて、あるいは、
これまで気付けなかつたこと
が分からせてもらえることで

を三日間で終わらせるのでは
なく継続してもらいたい思い
ます」と本部布教部長松村先
生はお話し下さつております。
また、十月二十九日には「よ
うぼく一斉活動日」がござい
ます。これは同じ地域に住む
ようぼくが集い、親神様、教祖
の思いに心を揃え、互いに勇
ませ合つて共に年祭活動の歩
みを進める日であります。こ
こに私たちは心一つにつと
めなければなりません。年祭
活動期間中に全五回あります
真柱様の仰せ下さる心一つ、
一手一つにつとめられる行事、
おぢばの声に答えて参加させ
て頂きましょう。

大変ありがたいことに私も
このおぢばの声、にをいがけ
の強調月を意識し出してから
動きが上向きに心も上がつて
きております。まず私たちは
このおぢばの声を素直に聞く
こと、そうすれば必ず大きな
勇みの種を頂けます。そして
大きなご守護に繋がります。
ここを逃さずつとめさせて頂
き、教祖百四十年祭を笑顔
で迎えられるよう、また、教
祖にたくさんの喜びの報告を
させて頂き、私たちの親であ
る教祖に喜んで頂きましよう。

ようき会通信

《札幌ようき会》

9月17日、北海道教務支庁を会場に「ようきセミナー」が開催された。

今回の「ようきセミナー」は、今年から大教会で始まった「修養会事前研修会 よろこびセミナー」に一人でも多くの方に受講して頂くとう企画したものだ。

午前中は誠健布教所・小笠原敏子さんが事前研修会を受講した感想などを発表し、その後、結城和広大教会役員が年祭活動の通り方などをお話下された。



午後からは、午前中のお話を聞いて感じたことなどを班に分かれて話し合い、その後、細木善信大教会役員が、事前研修会のアピールや、これから始まるようぼく一斉活動日の説明などをして下さった。4年ぶりとなる活動であったが、大人69名、子供9名と



いう大勢の方が参加して下さい、年祭に向かって大きな一歩を踏み出すことができた。

《関西ようき会》

最近、詰所の月次祭まなびが賑やかなのです！多い時では30名近くになり、詰所の修練室に入りきらない時があるそうです。

月次祭まなびは、基本、第三日曜日の夕方から始まり、その後、直会をさせて頂きます。おちばがえりにお帰りの際、タイミングが合いましたらぜひ一度ご参拝下さい。



全教一斉にいがけデー

9月12日、祭典終了後に、教会長20名、他ようぼく20名が網走市内を一時閉鎖、各教会の世話人ごとの班に分かれ、戸別訪問に歩かせて頂いた。

9月にはにいがけ強調月ということもあり、この年祭活動の旬に、一つでも多くの種時きをしようと、勇んでに



をいがけをさせて頂いた。そんな中、直轄ようぼくの小野寺さんは「今回、大教会に4年ぶりに参拝させて頂き、大教会長様と一緒に、にいがけに回らせて頂き、とても

各教会に戻ってきた神実様などを教会本部へお戻し

大教会や部内教会で、各講社などに祀らせて頂いた神実様が、種々な理由から、戻ってきて、教会で保管していた物、また、出直した方のお守りやおかきさげを大教会に持ち寄って頂いていた。

この度、9月23日、大教会長と藤山重善・祭事部長がおちばに持参して、お戻しさせて頂いた。

動 静

出 直

▼直轄ようぼく・伊東徳明様は9月21日出直された。享年62歳。葬儀は9月24日網走にいはら斎場にて瀬川定自・直轄世話人齋主のもと執行された。

年 祭

▼直轄所属・遠田博之の霊様の5年祭が9月23日、東京都大田区の自宅にて瀬川陽一・直轄世話人祭主のもと執行された。

▼直轄所属・田中純枝の霊様の1年祭が9月25日大教会祖霊殿にて瀬川定自・直轄世話人祭主のもと執行された。

▼網新分教会所属・加藤ヒサ子の霊様の5年祭が9月17日網新分教会にて新川正美・網新分教会長祭主のもと執行された。

9月人のご守護

- 初席者 (3名)
 - 直轄 浅田 幸斗
 - 女満別 姉崎 明美
- 中席者 (5名)
 - 徳元 清水 雅人
 - 田中 昌広

本部食堂ひのきしんを終えて



網盛分教会 大山賢治

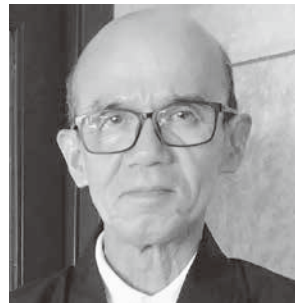
今年五月、母である前会長が、九十五歳で出直しました。その後、心にポカーンと穴があいたような日々を過ごしていた頃、当教会世話人の藤山重善先生から声をかけて頂き、本部食堂ひのきしんをさせて頂くこととなりました。

十五年ぶりのおちば帰りと初めての食堂ひのきしんということもあり、喜びと不安な気持ちで帰らせて頂きました。

ひのきしん場所は、第一食堂となり、厨房でおかずを盛りつけたり、食器洗い、後片付け、掃除など、色々させて頂きました。ひのきしんの合間には、休憩時間があり、他系統の信者さんとゆっくり話もでき、とても貴重な時間でした。

ひのきしん者の中に、福井

ようぼく講習会を受講して



女満別分教会 伊藤博美

今回、初めて本部の講習会(親神様の御守護と教えの実践)を受講させて頂きました。教室に入ると、五十人ほどの方がいて、とても緊張しま

県から来られた七十八歳の方がおりました。この方は、毎年4回ほど食堂ひのきしんに、自ら手を上げて来られている方で、ひのきしんも率先してつとめる姿に、私は感服しました。十五日間休まずひのきしんさせて頂けたことにお礼を申し上げますと共に、教祖百四十年祭の旬に、この親里で、皆さんの仲間とひのきしんに汗を流し、共に喜ばせて頂けたこと、本当に感謝しております。有難うございました。

ごとに分かれて自己紹介やサイコロトークなどをして、気がつくときまで緊張していた自分の心が、スーッとなくなっていることに気がつきました。その後、講義・ふり返りトークで午前中は終了。そして、今回ひそかに楽しみにしていたのが、昼食のカレーライスでした。久しぶりに食堂で食べるカレーは、とても美味しかったです。午後からは、講話・ふり返りトークとプログラムは進み、先生のお話は、とても分かりやすく、すい込まれるようなお話だったので、夢中でノートをとっていました。閉講式では、今日学んだ教えを知識としてではなく、実践していきたいと思います。という言葉が心に残りました。年祭活動の旬に、こんな素晴らしい講習会に出会えたことを感謝して、今後も信仰を深めたいと思います。皆さん是非とも「ようぼく講習会」に参加しましょう。必ず、陽気ぐらしへの糧となるでしょう。

立教186年人のご守護 心定め			
初席者	ようぼく	修養科修了者	教 人
69名	44名	34名	21名
成 果 (9月末現在)			
19名	6名	4名	3名

13日 秋季霊祭。修養科事

12日 月次祭。役員会議。

11日 教祖140年祭網走おたすけ委員会会議

10日 役員会議

9日 網走支部例会会場

3日 縦の伝道日

2日 お話し会

1日 会長、教区喜びおたすけの集い参加。役員会

田中繁様(妻1年祭)

大教会9月の動き

育英会寄付者

別席傍聴願者(2名)

をびや許願者(1名)

教人登録者

武士 村井 実

武士 村井 実

武士 村井 実

別席傍聴願者(2名)

をびや許願者(1名)

教人登録者

武士 村井 実

武士 村井 実

武士 村井 実

別席傍聴願者(2名)

をびや許願者(1名)

教人登録者

武士 村井 実

武士 村井 実



教祖140年祭

30日 みそか会

28日 全教一斉にをいがけデー(30日まで)

27日 神楽奉仕つとめる

26日 細木善信役員、本部

25日 結城和広役員、本部

24日 長、教区主事会出席

23日 本部月次祭遙拝。会

22日 議長

21日 議長、本部災救隊会

20日 議長

19日 議長

18日 議長

17日 議長

16日 議長

15日 議長

14日 議長

13日 議長

12日 議長

11日 議長

10日 議長

9日 議長

8日 議長

7日 議長

6日 議長

5日 議長

4日 議長

Table with columns for location (地方), names, and roles. Includes entries like 菅原明宏, 藤山重善, etc.

秋季霊祭は9月13日午前10時より、神殿の儀が行われ、てをどり終了後、祖霊殿の儀が執行された。このたび、東藻琴・小針すみ子様、網盛・大山フテヨ様の霊様が新たに合祀された。

秋季霊祭

立教186(令和5)年人のご守護成果表 (9月末現在). Table with columns for church name, initial, middle, and final counts, and total participants.

9月 月次祭 9/12(火). Table with columns for church name, names, and roles. Includes entries like 菅原明宏, 藤山重善, etc.